

 大塚商会

主要な事業：IT関連機器やソフトウェアの販売などを行うシステムインテグレーション事業と、サプライ供給、保守、教育支援などを行うサービス&サポート事業

従業員数：7,949名（2024年末日）



人事総務部 給与課 課長の長谷部拓也さん（左）とお話をうかがった人事総務部 給与課 主任の山崎真依さん。

繁忙期の源泉徴収票・利子補給通知書の 入力業務を効率化！

AI-OCRで年間75時間の作業時間を削減

「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」の導入で、
給与計算業務の省人化と個人情報保護に配慮した安全な運用環境を構築

株式会社大塚商会では、従来、社員の前職の源泉徴収票や銀行から届く財形の利子補給通知書の内容を、目視しながらExcelへ手入力し、ダブルチェックする方法で対応してきました。この作業に多くの時間を要し、繁忙期にはチェック担当者の業務負荷が高くなるのが課題でした。これを解決するため、2025年3月に「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」を導入。手入力作業の大幅削減と省人化を実現し、業務時間を年間で約75時間短縮することが見込め、人的リソースをより付加価値の高い業務へ振り向けることが可能となりました。

- 課題** 給与計算業務で、社員の前職の「源泉徴収票」と「利子補給通知書」の情報をExcelへ入力する作業に時間がかかるほか、ダブルチェックが繁忙期と重なるためチェック者の負担も高くなっていた。
- 解決法** 紙を見ながらの入力作業を、帳票をスキャンしてPDF化し、「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」で必要な情報をテキスト化する運用に変更。定型・準定型帳票の両方に対応できる製品を導入することで帳票処理の効率化を図り、さらにオンプレミス型の採用により、個人情報保護にも配慮した安全な運用環境を構築した。
- 効果** 手入力やダブルチェック作業が省力化され、源泉徴収票で年間約50時間、利子補給通知書で約25時間の業務時間を削減。さらに在宅勤務の推進、役職者の稼働を本来の業務にかけられるようになるメリットがあり、全体の効率化と業務負担の軽減につながった。

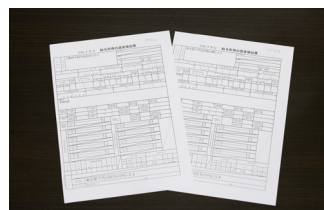
課題は情報の手入力作業と繁忙期に重なる入力結果のチェック作業

——「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」は、給与関係のどの業務で使用されていますか。

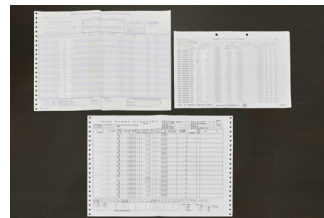
山崎さん 社員の前職（アルバイトを含む）の「源泉徴収票」や、銀行から届く「財形の利子補給通知書」の情報を給与計算システムに登録する業務で使用しています。

——どのような課題があったのでしょうか。

山崎さん これまでは帳票を目視しながらExcelに手入力していましたが、枚数や項目数が多いため入力に時間がかかっていました。また、入力担当者と課内の他者で入力項目のダブルチェックをする必要があり、繁忙期に時間を取られてしまうことが課題でした。



紙の源泉徴収票のサンプル。
企業によりサイズやレイアウト
が異なります。



3行から届く利子補給通知書の
サンプル。銀行ごとにレイアウト
が固定の定型帳票です。

AI-OCRを導入し、入力・チェックの作業時間を年間約75時間短縮

——源泉徴収票は年間で500～600枚ほど処理されるとうかがっています。

山崎さん 8月から9月に新入社員の紙の源泉徴収票がまとまって届くので、2か月間で400枚ほど処理します。それ以外は中途入社員の源泉徴収票なので、50枚ほどそろった段階で処理しています。

——給与計算システムに入力する目的を教えてください。

山崎さん 12月に行う年末調整では、弊社での収入とアルバイトや前職での収入を合算して精算する必要があるため、源泉徴収票を回収して給与計算システムに前職給与の情報を取り込んでいます。

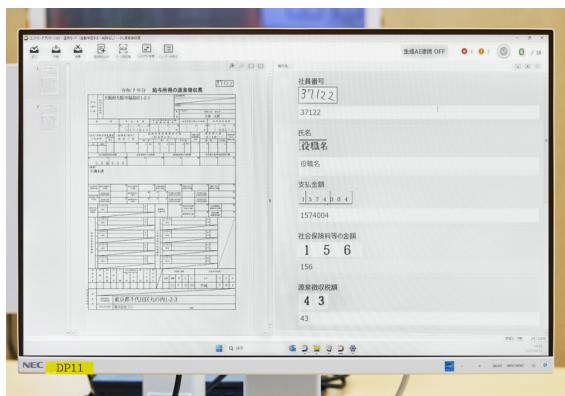
——源泉徴収票のフォーマットは企業によって異なりますか。

山崎さん 企業によって違いがあります。紙のサイズは、A4サイズやはがきサイズなど様々ですし、レイアウトがほぼ同じでも、企業によって縮尺や項目欄のサイズが異なります。

——給与計算システムに取り込むまでの流れをお聞かせください。

山崎さん 届いた紙の源泉徴収票は複合機でスキャンしてPDF化し、そのあと「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」で年末調整に必要な項目だけ読み取ります。読み取った内容はほぼ正確ですが、企業によってレイアウトが異なるため、読み取り位置がずれる場合があるので、DynaEyeの画面上で読み取り位置を修正したり、数字の間隔を訂正したりします。

読み取り内容のチェック・修正が終わったらデータをCSVで出力し、給与計算システムに取り込むための形式に加工後、給与計算システムに取り込みます。



源泉徴収票はエントリーアプリケーションを使用。
企業によってレイアウトが異なる帳票を柔軟に読み取ります。

——本格運用前ですが、想定する効果についてお聞かせください。

山崎さん 一番は作業の効率化と省人化です。これまでは入力作業を1名が行い、ダブルチェックは役職者2名に分担して依頼しており、「源泉徴収票」の入力・チェック作業を3名で行っていました。これが、「DynaEye 11 Entry Lite AI-OCR」の導入によって、入力からチェック・システム登録までの作業を1名で行えるようになります。

トータルで65時間ほどかかっていた作業が約15時間に短縮され、年間で50時間ほどの業務短縮を見込んでいます。また、帳票のデータ化により、在宅勤務が可能になりました。

——チェック作業が不要になったことによる効果はありますか。

山崎さん 今年は役職者にチェックをお願いしないとなると、別の業務に、より多くの時間をかけられるので業務負担の軽減と企業の生産性向上につながります。

——次に利子補給通知書の情報を給与計算システムに入力する目的を教えてください。

山崎さん 財形貯蓄をしている社員に対し、半年に一度、利子補給を行います。この利子補給の金額は給与扱いになるため給与課税する必要がありますので、利子補給額を給与計算システムに取り込みます。紙の利子補給通知書は、3行の銀行から春と秋の年に2回、年間150枚ほど届きます。

——AI-OCRを導入する前の流れと課題を教えてください。

山崎さん 導入前は、銀行から利子補給通知書が届いたら、利子補給の金額や社員番号の情報をExcelに手入力し、課内でダブルチェックをして給与システムに取り込んでいました。手入力作業に時間がかかることと、月の中旬は業務が集中するのですがその時期にチェックを依頼しなければならないことが課題でした。

——AI-OCR導入後の流れをお聞かせください。

山崎さん 紙を複合機でスキャンしてPDF化し、そのあとAI-OCRで読み取ります。利子補給通知書は、銀行ごとにレイアウトが固定の定型帳票なので読み取る場所の修正なども不要です。そのままCSVに出力します。その後、データと紙の利子補給通知書の情報を照らし合わせてチェックし、取り込み用のデータを作成します。



標準アプリケーションの書式定義画面。利子補給通知書は、レイアウトが固定なので標準アプリケーションを使用します。

——現段階で想定している導入効果をお聞かせください。

山崎さん ダブルチェックが不要になり、作業人数が2名から1名に半減しました。作業時間も、年間35時間から10時間になり25時間ほどの業務短縮を見込んでいます。

※Excelは、マイクロソフトグループの企業の商標です。

